



## 2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年2月8日

上場会社名 かどや製油株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2612 URL http://www.kadoya.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小澤 二郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員管理本部長 (氏名) 戸倉 章博 TEL 03-3492-5545  
 四半期報告書提出予定日 2019年2月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第3四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	26,338	14.8	4,087	△3.5	4,273	△1.8	2,844	△4.0
2018年3月期第3四半期	22,924	-	4,239	-	4,351	-	2,963	-

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 2,735百万円 (△15.5%) 2018年3月期第3四半期 3,239百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	309.17	-
2018年3月期第3四半期	315.57	-

(注) 当社は、2018年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しており、連結子会社のみなし取得日を2018年3月期第3四半期末日としているため、2018年3月期第3四半期の経営成績には、子会社の業績は含まれておりません。また、2018年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	35,302	74.4	26,273	74.4		
2018年3月期	32,930	75.7	24,918	75.7		

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 26,273百万円 2018年3月期 24,918百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	-	0.00	-	150.00	150.00
2019年3月期	-	0.00	-	-	-
2019年3月期（予想）	-	-	-	115.00	115.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,500	12.7	4,200	△17.0	4,200	△18.2	2,860	△17.4	310.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期3Q	9,400,000株	2018年3月期	9,400,000株
② 期末自己株式数	2019年3月期3Q	200,279株	2018年3月期	200,326株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期3Q	9,199,681株	2018年3月期3Q	9,389,892株

(注) 当社は「株式給付信託（BBT）」を導入しており、期末自己株式数には、信託に残存する自社の株式（2019年3月期第3四半期 14,953株、2018年3月期第3四半期 一株）を含めております。また、期中平均株式数は当該信託が保有する株式を考慮して計算・記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

尚、上記予想に関する事項は添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（日付の表示方法の変更）

第1四半期より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における連結経営成績は以下のとおりであります。なお、当社は、前第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しており、連結子会社のみなし取得日を同連結会計期間末日としているため、前年同期の四半期連結損益計算書には子会社の業績は含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、相次ぐ自然災害の影響等がありましたが、好調な企業業績等を背景に雇用・所得環境が改善した他、設備投資が増加する等、堅調に推移しました。また、世界経済は、緩やかな回復基調にありますが、米国の保護貿易政策を発端とした貿易摩擦激化や英国のEU離脱問題等により、今後の動向は不透明な状況にあり、日本経済に与える影響も懸念されます。

食品業界におきましては、人口減少傾向により、国内市場の拡大が困難となる中で、差別化によるマーケットシェアの確保、海外市場の開拓、新たな付加価値の創出や不断の食の安全性確保等への対応が求められています。

このような状況下、当社グループは、顧客ニーズや用途多様性に着目した製品ラインナップを揃え、積極的な販促を行いました。

ごま油においては、純正ごま油濃口200gの発売を契機に、多くのファンに親しまれる宝塚歌劇団と提携した「宝塚歌劇ご招待キャンペーン」を実施し、より強い風味が特徴である同製品の認知拡大やブランド力向上を図りました。また、純正ごま油PET600g製品においては、家庭用と業務用のいずれの販路も期待できる中容量品として、積極的な販促を行い、好調に推移しました。以上により、販売数量は前年同期比101.7%となりました。

食品ごまにおいては、量販店向けへの販売数量が拡大する等、好調に販売が推移した他、前期11月に家庭用食品ごまに強みを持つカタギ食品株式会社を子会社化したことにより、販売数量の底上げがされております。また、分離しても揉み混ぜることができる包材であるスパウトパウチを使用した直火焙煎香ばしねりごまの発売を11月より開始しました。以上により、販売数量は前年同期比146.0%となりました。

一方で、足元の原料価格動向は上昇局面にあり、適正価格での販売が課題となっております。コスト面では、原料価格の上昇に加え、第二工場人員の採用等に伴う人件費の増加等が生じた他、販売数量伸長に伴って変動費が増加しております。以上の他、子会社連結の影響もあり、売上原価は前年同期比117.9%、販売費及び一般管理費は前年同期比121.2%となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高26,338百万円(前年同期比3,414百万円増)、経常利益は4,273百万円(前年同期比78百万円減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,844百万円(前年同期比118百万円減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

## ①ごま油事業

ごま油事業におきましては、純正ごま油PET600g製品の家庭用市場における販売が拡大した他、輸出用においても販売数量が伸長しました。以上により、ごま油全体の売上高は前年同期を上回りました。一方で、原料価格の上昇や、生産能力増強のために5月に実施した搾油用焙煎機更新に伴う減価償却負担等により、売上原価は前年同期比で増加しました。なお、人件費の増加等により、販売費及び一般管理費も前年同期比で増加しております。

以上の結果、売上高は19,436百万円(前年同期比331百万円増)、セグメント利益は3,239百万円(前年同期比353百万円減)となりました。

## ②食品ごま事業

食品ごま事業におきましては、家庭用製品における量販店向けの販売増加及び新規PBの獲得や、業務用製品における惣菜向け及び加工ユーザー向けの需要増等により、全体的に好調に推移した他、カタギ食品株式会社の子会社化により販売数量の底上げがされ、食品ごま全体の売上高は前年を上回りました。一方で、子会社へ充填作業委託や新製品である直火焙煎香ばしねりごまの生産委託を行う等、グループ内の生産体制の効率化に取り組みましたが、原料価格の上昇等により売上原価は前年同期比で増加しております。なお、人件費の増加や子会社との連結等により、販売費及び一般管理費も前年同期比で増加しております。

以上の結果、売上高は6,855百万円(前年同期比3,051百万円増)、セグメント利益は823百万円(前年同期比184百万円増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ2,371百万円増加しました。これは現金及び預金が4,928百万円減少するなどの減少要因があったものの、有形固定資産が5,303百万円、受取手形及び売掛金が1,162百万円、原材料及び貯蔵品が815百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,015百万円増加しました。これは未払法人税等が829百万円、賞与引当金が262百万円減少するなどの減少要因があったものの、未払金が2,284百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,355百万円増加しました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益2,844百万円の計上と配当金の支払い1,379百万円の加減算により利益剰余金が1,464百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年5月14日に公表いたしました業績予想から修正は行っておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,108	6,179
受取手形及び売掛金	7,347	8,509
商品及び製品	1,275	1,342
仕掛品	779	693
原材料及び貯蔵品	3,434	4,250
その他	244	497
流動資産合計	24,190	21,474
固定資産		
有形固定資産		
建設仮勘定	345	3,993
その他	5,442	7,099
有形固定資産合計	5,788	11,092
無形固定資産	173	232
投資その他の資産	2,777	2,503
固定資産合計	8,740	13,828
資産合計	32,930	35,302
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,491	2,580
未払法人税等	1,249	420
賞与引当金	397	135
役員賞与引当金	266	134
未払金	1,914	4,198
その他	470	301
流動負債合計	6,789	7,769
固定負債		
退職給付に係る負債	877	944
役員株式給付引当金	—	6
資産除去債務	53	54
その他	291	254
固定負債合計	1,222	1,258
負債合計	8,012	9,028
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,160	2,160
資本剰余金	3,082	3,067
利益剰余金	20,333	21,797
自己株式	△1,396	△1,380
株主資本合計	24,179	25,644
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	755	642
繰延ヘッジ損益	△16	△13
その他の包括利益累計額合計	738	629
純資産合計	24,918	26,273
負債純資産合計	32,930	35,302

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	22,924	26,338
売上原価	12,141	14,315
売上総利益	10,783	12,023
販売費及び一般管理費	6,543	7,935
営業利益	4,239	4,087
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	22	31
為替差益	63	179
受取解決金	24	—
投資有価証券売却益	—	5
雑収入	6	12
営業外収益合計	118	228
営業外費用		
支払手数料	4	14
補助金返還損	—	8
災害による損失	—	17
投資有価証券売却損	—	1
雑損失	1	0
営業外費用合計	5	43
経常利益	4,351	4,273
特別利益		
固定資産売却益	—	60
特別利益合計	—	60
特別損失		
固定資産除売却損	10	148
特別損失合計	10	148
税金等調整前四半期純利益	4,341	4,184
法人税、住民税及び事業税	1,324	1,281
法人税等調整額	53	59
法人税等合計	1,378	1,340
四半期純利益	2,963	2,844
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,963	2,844

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	2,963	2,844
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	266	△112
繰延ヘッジ損益	9	3
その他の包括利益合計	275	△109
四半期包括利益	3,239	2,735
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,239	2,735
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,341	4,184
減価償却費	522	579
のれん償却額	16	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△244	△262
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△58	△131
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	22	66
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	—	6
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△0
受取利息及び受取配当金	△23	△31
支払手数料	4	14
為替差損益(△は益)	△2	△1
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△4
有形固定資産除売却損益(△は益)	10	88
売上債権の増減額(△は増加)	△1,209	△1,162
たな卸資産の増減額(△は増加)	918	△796
その他の資産の増減額(△は増加)	△5	△309
仕入債務の増減額(△は減少)	53	76
その他の負債の増減額(△は減少)	△131	103
小計	4,213	2,420
利息及び配当金の受取額	73	91
支払手数料の支払額	△5	△14
法人税等の支払額	△1,255	△2,126
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,025	370
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	△4	△6
投資有価証券の売却による収入	—	85
有形固定資産の取得による支出	△320	△4,125
無形固定資産の取得による支出	△35	△128
有形固定資産の除却による支出	△24	△6
有形固定資産の売却による収入	—	276
資産除去債務の履行による支出	△5	—
貸付けによる支出	—	△1
貸付金の回収による収入	1	2
保険積立金の積立による支出	△2	△16
保険積立金の解約による収入	—	13
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△534	—
その他	2	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△922	△3,918
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	—	△1
配当金の支払額	△1,079	△1,378
自己株式の取得による支出	△313	△88
自己株式の売却による収入	—	89
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,393	△1,380
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	709	△4,928
現金及び現金同等物の期首残高	10,500	11,007
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,209	6,078

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合 計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,105	3,804	22,910	14	22,924
計	19,105	3,804	22,910	14	22,924
セグメント利益	3,593	639	4,233	6	4,239

(注) 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

なお、カタギ食品株式会社を連結の範囲に含めておりますが、みなし取得日を当第3四半期連結会計期間末日としているため、カタギ食品株式会社の業績は含まれておりません。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,233
「その他」の区分の利益	6
四半期連結損益計算書の営業利益	4,239

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合 計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,436	6,855	26,292	45	26,338
計	19,436	6,855	26,292	45	26,338
セグメント利益	3,239	823	4,063	24	4,087

(注) 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,063
「その他」の区分の利益	24
四半期連結損益計算書の営業利益	4,087

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。